



若い感性 表現自在 崇城大芸術学部 卒業・修了制作展

崇城大芸術学部の学生と大学院生の卒業・修了展が19日、熊本市中央区の県立美術館本館で始まった。24日まで。日本画や洋画、彫刻、視覚芸術、デザイン、漫画表現を専攻する54人が、感性を生かしてテーマを追求した作品を並べている。学生時代の出来事を描いた作品が目を引き。小藤健誠さんは、熊本地震で被災したアパートの解体現場を、白い空間の日本画で表現。蓮岡いぶきさんは、親友と自身の顔を油彩でポップに描いた。

自分の好みを表現した作品も。大学院の山下智愛さんは修了制作の人体彫刻のほか、好きな金魚を頭に乗せた自分の頭像を展示。楽器演奏が趣味の福森匡さんは、国産木材を使ったエレキギターを制作した。

アニメなどのサブカルチャーに着想し、SNSを活用して作った写真集（浅見征昇さん）、「かわいい」を題材にしたアート（杉本茉莉さん）など現代的な作品もある。入場無料。23、24日にギャラリートークを開催。（中原功一朗）